

News Letter

第 20 回研究会レポート

健康保持のための新施策が実施されようとしている。前回に続いて今回「続特定健診：既存の健診システムとの整合性」をとり上げた。講師は前回と同じく星子美智子氏である。

健診日は通年制に！

既存の健診システムとの整合性がない

健診内容はメタボリック シンドロームに偏重

「メタボリック シンドローム」に偏った特定健診について、前回に続いて論じた。特定健診は「メタボ」の概念を全面的に導入し、2015 年までに生活習慣病を 25%削減することを目標とする。すべてのデータを電子化して健康情報を国家管理しようとする。その施行を医療保険者に義務づけたことは国家的健康統制という非難を回避したといえる。

現在の健診システムである労働安全衛生法（安衛法）と高齢者医療確保法（高齢医法；特定健診）を比較すると、その対象者が一致する。しかし検査項目の整合性が図られていない。

問題点と対策を列举すると、①健診項目がメタボに偏重し、メタボ以外の疾患の早期発見は二の次である ②医療費削減は当面困難 ③データの電子記録は未浸透で、それに伴う個人情報の漏洩の危険性 ④保健指導する保健師数が不足しているので、一時的には看護師も保健指導を可能にする、などがある。これらの問題点の解決策が待たれる。

この特定健診を推進するための対策案は、健診の事前説明会を開き、健診料を無料化し、健診結果が改善しておれば保険料を減額する。実施日を休日・夜間にも行い、通年健診として例えば誕生日に健診する、などの対策を講じる。健診後の保健指導をすれば、対象者のモチベーションの惹起が肝要である。それを如何にかき立てるか。健康人にとっては、長期の介入はともすれば「おせっかい」という声が出るであろう。しかも費用を払ってまで、という思いがある。

長期的戦略を考えれば、「健康の基本は教育から」の立場から小中学生への健康教育を給食と一緒にやる。わが国の社会環境は飽食と運動不足の時代である。食べ物を賞味期限と共に廃棄する構図は、大量輸入・大量廃棄の典型例である。また車・IT 社会が運動不足に拍車をかけている。一方、ヤセ指向者対策は忘れられている。このような社会の現状を踏まえての戦略が必要である。

もし国民レベルで生活習慣病が予防できるならば素晴らしいことであるが、特定健診の実施内容の詳細な再検討が必要であると思う。

(mt)

英国のリバプール大学で『Health Impact Assessment』研修会が開催された(07年11月)。それに参加した石竹達也、原邦夫両氏(久留米大学環境医学)から参加記の報告があった。その手法を、本年4月に中核市として発足する福岡県久留米市を対象に試みようとするプロジェクトの紹介が星子美智子氏からあった。

健康影響評価(HIA)は公共政策決定に有用

健康への社会的影響因子には社会格差、ストレス、幼少期、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通などの生活環境のすべてがある。それらを評価する手法がHealth Impact Assessment(HIA;健康影響評価)である。その手法のトレーニングコースに、各国から20名ほどが参加し、討議と見学が5日間行われた。EU諸国では、HIAの結果を公共政策決定の向上に反映させる試みが行われているという。

第2の話題は、本年4月に中核市となる福岡県久留米市へHIA法を応用しようとする試みの紹介である。市民の保健は新設される市独自の保健所が担当する。福岡県と同一の規模と内容、役割を担うことになる。

中核市への移行に伴う健康への影響を想定すると、①合併される前の町々には保健政策格差があるが、今後同一の保健路線をとることになるので、健康支援が向上する町と低下する町が生じる②健康づくり事業が強化され、住民への保健サービスが向上することが期待される③住民健診率は向上するか?④地域住民の健康増進への関心度が高まるか?などがある。これらの仮説の元に、まず住民アンケート調査を行う。住民アンケート調査内容についての説明で、対象者の選定に多くの問題点が指摘された。今後の成果を期待したい。(mt)



* 第29回国際労働衛生会議(ICOH)が2009年3月22-27日、南アフリカのケープタウンにて開催される。詳細はwww.icoh2009.co.zaを。

* 日本HIA研究会の発足準備が行われている。HIAとはHealth Impact Assessmentの略で、健康への社会的影響因子を分析して、その後の政策決定に生かすことが目的。問合せは、久留米大学環境医学・石竹達也教授まで。

◆第21回研究会(次回)は、**08年6月7日(土曜日)**14:00—17:00です。

* 予定プログラムは

[1] 女性労働の歴史と外国事情 星子美智子(久留米大学医学部環境医学院生)

[2] 働きがいのある職場条件 井手亜佐子(社会保険くろめ第一病院

保健管理センター・保健師)

* 会場: 久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。

◆08年の開催予定: 3月1日、6月7日、10月4日(各第1土曜日)

◆本誌“News Letter”を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人: 的場恒孝(代表)・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣・織田 進

[事務局] (〒830-0011) 福岡県久留米市旭町6-7 久留米大学医学部環境医学教室内

“失業と健康” 研究会

Fax: 0942(31)4370 Tel: 0942(31)7552 E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp